



6月の園だより

令和5年 6月 1日
目黒区立ひもんや保育園長

暖かくなり、園庭でのどろんこ遊びがどのクラスも盛んになってきました。事務所の窓からは子どもたちが水道で水を汲んでいる様子がよく見えます。ある日2歳児クラスの子が小さい容器に水を入れようとしていると水の勢いが強くて思わず水しぶきが顔にかかり、びっくりした顔をしていました。後ろに並んでいた同じクラスの子が気づいて水の勢いを少なくしてくれようとしてますが、ちょっと水がかかったのがおもしろかったようで、やっぱり自分で勢いよく出し、顔にかかるのを楽しんでいました。幼児クラスになると水を運ぶのも豪快になり、初めはバケツで運んでいましたがとうとうタライに挑戦です。このほうが一気に運べると思ったのでしょうか。でも重くて運べずにその場にジャーとこぼしてしまいました。何回もこぼし水たまりができてしまうほどですがくじけません。「そうだ3人で運べばいいんだ」とひらめき友達を呼んで再チャレンジします。初めは3人でも運べずこぼれてしまいますがみんな笑顔で「もう一回」とチャレンジします。友達をもう一人呼んで4人で運んでみたら大成功し、「できた」と嬉しそうでした。大きな水たまりができると手を入れ、ドロドロになりながら川を作ったり、板を渡して橋を作ったりと遊び始めます。どのクラスの子どもも、保育士も裸足になり水の冷たさドロドロの感触を味わい、楽しさを共有しています。遊びの中で子どもたちがどうしたらいいのか考え、協力したり工夫したりする力が育ってきています。

6月の懇談会

- 0歳児クラス懇談会
- 3歳児クラス懇談会
- 2歳児クラス懇談会
- 5歳児クラス懇談会

6、7月の行事・検診

【6月】

- 眼科検診 全園児
- 耳鼻科検診 3～5歳児
- 歯科検診 全園児
- お祭りごっこ

【7月】

- プール開き
- 七夕会

～5歳児クラス 田植え～



ぬるぬるするね



これがお米になるんだよ

田んぼに入るのドキドキするな

秋には自分たちで育てたお米を収穫します。田植え、稲刈り、脱穀、粳摺りと1年かけてお米作りを経験します。

まだ穂はついていませんが、大切なお米が鳥に食べられないように今から“かかし”を作ると意気込んでいます。

戸外遊びの様子

つくし組 (0歳児クラス)

園庭で這い這いをしながら探索していた子どもが、タイヤの傍まで来て穴を覗き興味津々です。保育士が中に入り「〇〇くん」と手を振ったりしているうちに、その子も中に入ろうと、ヨイショッと足を上げて悪戦苦闘しています。保育士がそっと身体を支え、タイヤの上にまたがるように座らせてあげると嬉しそうに微笑んでくれたので、保育士も微笑み返し「すごいね」と拍手すると、子どもも同じように手を合わせていました。またがっているうちにバランスを崩しそうになると保育士の腕につかまりニコリ笑っていました。その不安定さが面白かったようで、バランスを取りながらも自分で揺れて嬉しそうでした。興味を持ったことなどいろいろなことを試している子どもたちです。

子どもが興味や関心を持ったものを見逃さず、やってみたいなと思う気持ちを育てていきたいと思います。



すずらん組(1歳児クラス)

園庭の水道でのことです。子どもたちは代わる代わる一生懸命手を伸ばし、お兄さんたちが出している水の下に容器を出したり水を触ったりしながら勢いよく出たり、ぽとぽと垂れる水をじっと見て観察したりしていました。一人の子は、指で蛇口の先を触った途端に水がピシャッと顔にかかり大慌てです。保育士が顔を拭いてあげながら「びっくりしたね」と笑顔で声をかけると、にこっと笑ってまた蛇口に手を伸ばしていました。それからは水が飛んで顔にかかる的一瞬间を飲むものの、それが面白くて

何度も何度も繰り返し、保育士を見ては満足そうな笑顔を見せてくれました。

きっと思いがけず顔に水がかかり驚いたときに、保育士と目が合い一緒に笑えたことで“びっくりしたけど“大丈夫”と思えたのだと思います。

いろいろな体験をする中で、子どもたちが“やってみたら楽しいな”“もう一回やろうかな”と思えるように保育士が安心基地になり、見守っていききたいと思います。



ちゅーいっぷ組(2歳児クラス)

園庭に行くと“我先に”とばかりに水道に向かう子どもたちです。勢いよく蛇口をひねり飛び散った水が手足や体にかかっても気にもせず笑い声をあげています。近くにいる保育士の手足にもジャーとかけ“どう？冷たいでしょ？”と言いたげに笑みを浮かべていました。無我夢中で水を汲んだりこぼしたりしているうちに足元に水たまりができていくことに気付くと、嬉しそうに手ですくって「うわあ」と声をあげています。そして指の間から泥がこぼれ落ちていく様子をじっと見ていました。保育士も同じように泥をすくって「とろとろしてるね」と言う嬉しそうに微笑んでくれます。そのうちに足で泥を踏んだり跳んだりを何度も繰り返し楽しんでいました。そんな姿を見た他の子どもも集まってきて、みんなでジャンプして、跳ねる音や感触を楽しんだりちょっと高いところから飛び降りたりする子もいました。泥が苦手な遠くから見ていた子も、友達の楽しそうな姿を見て、少しずつ触れられるようになり、今では裸足になって泥だらけになって楽しんでいきます。子どもたちのワクワクした気持ちや発見した面白さに共感しながら、保育士も思い切り水、泥遊びを楽しんでいきます。

